

家政福祉学科卒業生18名が、 令和4年4月から家庭科教員になります！

令和4年3月に卒業する70名のうち、18名(25.7%)が千葉県、東京都、神奈川県、茨城県、栃木県、山形県で公立および私立の中学校または高等学校の家庭科教員として教壇に立ちます。

「家庭科教員の和洋」の歴史を紡ぐ一人になることに自覚と責任を持ち、頑張ってくれることを期待しています。

家庭科教員を目指したきっかけは中学校の家庭科の先生との出会いです。そして、生きる上で必要な知識や技術を学び、考え方や視野を広げられる家庭科という教科は、生徒がよりよい人生を送れるように支援できると思ったからです。

大学の授業は講義でも演習でも様々なことを学ぶことができ、視野や考え方が広がりました。教員採用試験のために、電車の隙間時間などに自分が興味を持ったことや復習を行い、先生が言ったことをメモを取り、わからないことは積極的に質問に行きました。

目指す教員は生徒に寄り添い、家庭科の授業を通して生徒の考え方や視野を広げてあげられる教員です。



千葉県公立高等学校
上代 由希野
(千葉県立四街道高等学校 卒)

私が家庭科教員を目指したきっかけは、高校から『食』を専門的に学んでいたため、その学びを生かしたいと考えたためです。さらにボランティア活動や大学生活で様々な人と関わることで、家庭科教員になりたいと強く思うようになりました。

授業に関しては、家政福祉学科では家政学や福祉について学ぶことができるため、自身の生活と繋がっている内容を学んでいる実感が常にあり、日々の授業が楽しかったです。もちろん苦しいことや不得意なことたくさんありましたが、先生方のサポートのおかげで以前より成長することができました。



山形県公立高等学校
佐藤 瑞穂
(山形県立鶴岡中央高等学校 卒)

「誰かに影響を与える人になりたい」という思いから教員を目指しました。

その上で、家庭科という教科が、生活に密着する科目であり、物事を広い視野で考えることで、世の中を変える力が身につく教科であるため、家庭科を選択しました。大学では家庭科教員免許取得に必要な家政系の科目に加え、福祉学や心理学も学ぶことができ、教育への学びを深めることが出来ました。

対策講座への参加やボランティア活動を行い、免許取得に励みました。

今後は、家庭科教育を通して、より良い世の中をつくるきっかけづくりができるような教員となれるよう、努力していきたいです。



千葉県公立高等学校
小見山 愛美
(千葉県立成田国際高等学校 卒)

私が家庭科教員を目指したのは、もともと子どもや家庭科という科目が好きでしたが、家庭科が私自身の人生経験も踏まえて、次の世代に伝えていける教科だと思ったからです。

教員になるために、たまごプロジェクトに参加したり、補助講師をするなど、できるものは全て参加し、さらに自分の糧になるような資格取得にも取り組みました。

生徒が安心して学校生活を送れるように寄り添い、私自身も成長できるような教員になりたいと思います。



千葉県公立中学校
越川 優花
(千葉県立若松高等学校 卒)

高校時代の先生に憧れ、家庭科教員を目指すようになりました。

大学生活は、サークル活動や友人と旅行など思い出がたくさん作れました。大学の授業は、レジュメ内容より先生の口頭でお話が大事なので、とにかくメモを取るように心がけました。

教員になるために、中学校に週一回研修に行く「たまプロ」にも参加しました。生活の知識が身に付き、実生活にいきるような、身近な話題を用いた授業を心掛けたいと思います。そして、生徒の長所を伸ばせるよう、成長を見逃さず視野の広い教員になりたいです。



千葉県公立中学校
名雪 礼華
(私立和洋国府台女子高等学校 卒)

私は高校の恩師に憧れ教師を目指すようになりました。

家庭科教員免許の取得できたのは同じ目標を持つ友だちに出会うことができたからです。授業と一緒に受けるだけでなく、模擬授業の改善点を教え合ったり、採用試験の勉強に一緒に取り組んだりするなど、お互い励まし合うことで、最後まで頑張ることができました。

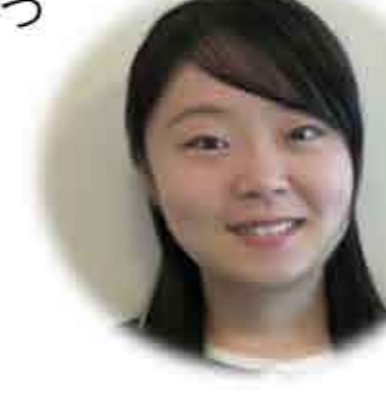
来年度から中学校の家庭科教師になりますが、自分らしく、生徒の気持ちに寄り添い、共に成長できる教師を目指して頑張ります！



千葉県公立中学校
渡辺 恵
(私立東京学館船橋高等学校 卒)

大学の日々の授業では、家政に関する専門的知識を習得する度に、バランス良い食事に気を配るようになるなど、生活が豊かになる感覚がありました。この経験から、生徒の暮らしに充実感を持たせられるような面白い授業を展開することができる家庭科教員になりたいと思うようになりました。

大学では授業から多くの知識を吸収するよう意識し、大学以外ではサークル活動等を通して子どもと接する機会を増やすようにしていました。教員となったときに、胸を張って教壇に立つことができるよう注力しました。



つくば国際大学高等学校
石野 桃花
(私立大成女子高等学校 卒)

家政福祉学科には同じく家庭科教員を目指している友達がたくさんいたので、情報交換をし、励まし合い、刺激し合いながら学ぶことができました。

大学の授業は実践的な授業が多いので知識だけでなく、実践力もつけることが出来たと思います。大学での家庭科教員養成のための授業は、これからの家庭科教員として働く私にとって、即戦力になると思います。



白鷺女子高等学校
加藤 朱莉
(新潟県立長岡大手高等学校 卒)

高校での家庭科の授業で、家庭科は生活のすべてを学ぶことができる科目であり、生きるために欠かせないことを知り、私も生活の基礎となる知識や技術を教えられる先生になりたいと思い、家庭科教諭を目指すようになりました。

和洋女子大学で教職を目指すにあたって、授業はもちろんのこと、授業時間以外でも先生方のサポートや支援が手厚く、安心して学べる環境が整っていて、4年間教職科目の勉強を頑張ることができました。



千葉県公立高等学校
小柴 花
(千葉県立印旛明誠高等学校 卒)

私が教員を目指したのは、高校の先生方との出会いがきっかけです。高校の先生方の生徒一人ひとりに尽くす姿勢がとても刺激になり、教員になりたいと思うようになりました。

ではなぜ、家庭科の教員を目指したのかというと、料理に興味があったからです。私は、幼少期から料理をすることが好きで、家事だけはいくら疲れていたとしても楽しみながらやる事が出来ていました。そこで家庭科の教員を選んだのです。

大学の授業では、興味のある分野を詳しく学べ、人に教える術を具体的に学べたので、一歩ずつ成長出来たと思います。



興学社高等学院
酒井 鈴奈
(私立興学社高等学院 卒)

母校の先生に憧れがありました。そして、家政福祉学科に入学することになったので、家庭科教員になることを目指すようになりました。

大学生活は様々なことに挑戦し、辛いことや悲しいこともありましたが、それ以上に嬉しいこともあり充実したものでした。また、大学の授業はこれまでにない発見があったり、新しい考え方に会えるため毎回どのような内容なのか楽しみでした。

私自身、今まで人柄の良い先生方に沢山支えられてきましたが、今度は生徒を支える立場としてこのご恩を次の世代に送りたいと考えています。



愛国中学校・高等学校
武藤 早穂
(私立和洋国府台女子高等学校 卒)

私は家政科の高校に入学したものの、裁縫があまり得意ではなく、悩んでいた時期がありました。その時、高校の家庭科の恩師の指導に沢山救われ、家庭科が苦手から得意に変わりました。そして、自信を持つことが出来るようになりました。

このような経験から、自分も生徒に自信を与えられるような教師になりたいと考えようになり、家庭科教諭を目指すことにしました。



栃木県公立高等学校
福田 結香
(栃木県立宇都宮白楊高等学校 卒)

和洋女子大学 家政学部 家政福祉学科
令和4年3月卒業